

# 地域林政アドバイザー連携促進研修

---

## グループワーク資料（自治体間連携関連）

- 以下の資料は、令和6年11月28日（木）・29日（金）に行われた「地域林政アドバイザー連携促進研修」の資料です。
- 「自治体間連携」について、4グループに分かれてグループ討議を実施し、各グループの意見をまとめたもの（4グループの発表内容をまとめたもの）です。

## 自治体間連携の双方にメリットがあると考えられる具体例 1~4 班のまとめ

- 都市部と連携した「〇〇の森づくり」
- 木製バット用のアオダモなど、目的を持った植樹
- 同一流域にある水源部(上流)と都市部(下流)で連携し、下流部の都市在住の親子等を対象に、森林施業・製材・木工などの体験ツアーを実施  
(下流の都市部の人たちが享受する水などの豊かな自然の恵みは、川上(水源)で作られていることを体験によって学習)
- 都市部での木材利用(木のおもちゃや木造建築)を促進し、(都市上流域の)木の産地の植林の重要性を体験
- 『ライフサイクル(誕生、入学、卒業、成人等の人生の節目)に合わせた木育』  
(都市のメリット: 癒し、思い出、五感を使った非日常の体感  
地方のメリット: 荒廃地管理、森林整備、地域振興)
- 木育施設で、木のおもちゃ遊び、原料採取からの木工体験
- 和紙の卒業証書、学校机の天板など学校での木製品利用

## 自治体間連携を可能にするために留意すべきこと 1~4 班のまとめ

- お互いのメリットをすり合わせる
- 費用対効果を実感できる内容とする
- ストーリー性(物語性)を大切にする  
(例: 下流部は上流部に森林整備、上流部は下流部に木材提供の関係を構築し、同一流域内で一連のシステム(市場、製材、木材利用施設等)を体験)
- 目的やターゲットを明確にし、企画には色んな立場の人の意見を取り入れ、広報を工夫する(外国展開も視野に入れてみる)
- 都市部(自治体・企業)の参画を継続的に行うための仕組みを構築する
  - 上下流の自治体同士の連携を構築する
  - 上流の森林の利活用に向け、下流の自治体が提案公募する
  - 上流部の地域活性化を図るため、企業の参画を促す
- 自治体職員がプレイングマネージャーになると継続しないため、アウトソーシング先として地域の関連事業者(観光協会や旅行エージェントなど)と関係を構築する
- 座学より体験を重視し、持ち帰れる成果物(有形無形の思い出)があると効果的

# 地域林政アドバイザー連携促進研修

---

## 受講生提出資料（自治体間連携関連）

- 以下の資料は、令和6年11月28日（木）・29日（金）に行われた「地域林政アドバイザー連携促進研修」の資料の抜粋です。
- 「自治体間連携」の提案として、提供可能なコンテンツの具体的なアイデアや、連携を可能にするために必要な視点・留意点等をまとめてもらい、各受講生から提出いただいたものです。

## 都市部自治体や企業等との連携のポイントについて

～コンテンツ（中身）はストーリー（物語）が重要～

### 1 成功事例：「都市と山を結び、都市の森の実現に向けて」（森林環境譲与税活用事業）

（1）背景：市には森林はほとんど無く市民の木材利用意識は低い（9割が市街化区域）

（2）課題：

- ・市民は木に触れる機会が無くまた木材利用の意識が無い（木は伐ってはいけないとの認識）
- ・一方、林産地では地元材の販路拡大が課題

（3）対応方向：

- ・多数の自治体、企業、団体と連携して木材利用に関わる各種サプライヤーの基盤を設置
- ・都市部子育て世代に照準を合わせて駅前でも毎年イベント開催
- ・気軽に参加できる日帰り体験バスツアー実施（3500円／人）  
（市民対象、森林散策、伐採見学、地元材箸作り体験、特産弁当と城入場券付）

（4）ストーリー（物語）

「市が国産材利用に取り組むことで林産地の発展に寄与するとともに市民生活にも資する」

### 2 都市部自治体や企業との連携を可能にするための留意事項

（1）連携の形は多様

「企業はESG経営（Environment（環境）・Social（社会）・Governance（企業統治））に関心」

- ・これまでのCSRやSDGsに加えて、企業はネイチャーポジティブ（自然再興）（30by30やNbS（自然を活用した解決策））やTNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）へ取り組む必要に迫られている  
理由：環境に配慮した金融「ESG投資」への流れがあるため
- ・具体例1：天然水の森（県と協定締結、5年更新100年間）  
（工場の水源涵養エリア約600haで自然再生の調査研究と森林整備を実施  
2022年に30by30に参画し、一部の天然水の森は自然共生サイトに認定）
- ・具体例2：オフィス家具メーカー
  - ・社員の環境意識向上研修
  - ・地域の加工業者や森林組合との連携により国産材地域材を活用した製品開発

→ 単なる交流体験ではなく、生物多様性や気候変動対策との組合せや深掘りが必要

(2) 各地域における身近な資源の潜在的な価値に気付くこと

具体例：企業の森（企業が森林を取得して活用）

- ・2024年4月 生産森林組合所有山林の一部約220haを取得
- ・目的：「社会的価値の創造のため」  
(ネイチャーポジティブ実現、J-クレジット創出、環境教育サイト設置、森林業活性化)
- ・ポイント：企業側から森林買取と地元住民を対象とした環境教育実施の申出があった  
→ 「地域に元々ある森林資源には魅力があった」ということ  
(都市部自治体企画担当者のコメント「木はキラークンテンツ、やれば人が集まる」)

(3) プロの力を借りる

「全てを自治体担当者がやるのではなく、譲与税を活用して専門家や各種アドバイザーに任せる」

具体例：木づかいフェア

- ・これまで来場者約1千人規模の県イベント企画運営を環境教育NPOに委託した結果、目標来場者1200人に対して実績が3000人となり、開催会場のイベント史上最高来場者数を記録した
- ・ポイント：木育のプロに企画運営を委託した結果、行政には無い創意工夫が成功に寄与した  
(例：広報の一貫として市内の小学校へイベントチラシを配布し、家族連れの来場に繋げた 等)

(4) まずはできることから始める「例えば環境出前授業」

- ・小学校第5学年学習指導要領では森林林業が必修、都市部の小学校には潜在的な需要がある
- ・そこで、まずは都市部自治体に出向き、森林環境教育とともに地域の魅力を伝える 等

(5) 都市部自治体や企業にとってわかりやすいストーリー（物語）があること

- ・「これをこうすると都市住民には魅力やメリットがある」「こんな取組をすれば企業価値が上がり優良投資を呼び込める」など、具体的な目に見える説明ができると良い

### 3 その他：都市部自治体公共建築に地域材を使用していただく方法

(1) なぜ地域材が使用されないか

理由：価格と入手性が競合材より劣るため

- ・実際に都市部自治体公共建築では設計段階では県産材を使用予定だったが、実際には国産材となった、理由は価格高騰と必要な時に必要な量の確保が困難だったため

(2) 対応策

- ・都市部自治体と林産地とで木材供給協定を締結
- ・発注者へ付加価値（環境教育とセット可能とか）を説明、競合材との価格競争対策とする
- ・建築工事受注者と直接調整や売り込みを図る（実際に木材を調達するのは受注者のため）

### まとめ

- ・都市部自治体や企業へ提供するコンテンツにはストーリー（物語）性を持たせる
- ・「木はキラークンテンツ」を念頭に企画運営する

# はんのう 埼玉県飯能市

コンテンツ 分類	森林整備	人材育成	木材利用	普及啓発
			☆	☆

## 位置・主要交通機関からのアクセス

### ◆位置

埼玉県南西部、東は狭山市・入間市、南は東京都(青梅市と奥多摩町)、西は秩父市・横瀬町、北はときがわ町・越生町・毛呂山町・日高市に接した地域



### ◆主要交通機関からのアクセス

#### ●公共交通機関

- ・西武池袋線・池袋駅から約42分(特急電車)
- ・JR埼京線・大宮駅から約50分(川越経由)
- ・JR八高線・八王子駅から約34分

#### ●自動車(市街地まで)

- ・圏央道・狭山日高ICから約15分
- ・圏央道・青梅ICから約15分

## 地域の特徴

地形は山地、丘陵地、台地に分けられ、市北西部は山地で、市域の約75%を森林が占めています。

この地域から木材を筏で江戸へ流送していたことから、「江戸(東京)の西の川からくる木材」という意味で、この地域の木材を「西川材」、その生産地は「西川林業地」と呼ばれています。

また、「森林文化都市宣言」をしています。



## 都市部自治体(譲与税活用)や企業等に対する提供コンテンツ(具体例)

### ◆はしらベンチ(地域材「西川材」使用)

- 柱材をベンチで使いながら天然乾燥。
- レンタル6ヶ月に1度、新しい木材に入替。
- 交換して戻った材は、ウッドデッキや生活雑貨などに2次利用。
- 飯能市役所のほか、都市部自治体や企業等でも導入中。

料金：  
制作会社へ要相談



(画像)西川バウム合同会社

飯能市HP「はしらベンチ」のページに、「はしらベンチ設置箇所一覧」も掲載。



飯能市HP「はしらベンチ」

### ◆エコツアー(森林文化体験など)

- 環境省認定「飯能市エコツーリズム推進全体構想」に基づいたエコツアー。
- 身近な自然や地域の人々が持っている生活の知恵、衣食住の技術などの「宝物」を生かし市内全域にて実施中。
- 飯能市エコツーリズム推進協議会は、環境省のエコツーリズム大賞を平成20年度に、エコツーリズム特別継続賞を平成28年度にそれぞれ受賞。
- 一般募集の詳細等は、飯能市エコツーリズム公式サイトHP(右記QR)に掲載されている「飯能エコツアーチラシ」を参照。

料金・人数・所要時間：  
各実施団体へ要相談



(画像)飯能市エコツーリズム公式サイト

市内在住・在勤・在学の方向けに、「エコツアーガイド養成講座」も実施中。



飯能市エコツーリズム公式サイト

あがまち  
**新潟県阿賀町**

コンテンツ 分類	森林整備	人材育成	木材利用	普及啓発
		☆	☆	☆

**位置・主要交通機関からのアクセス**

◆位置

新潟県東部、阿賀町西部に位置し、山と川と自然に囲まれた地域

◆主要交通機関からのアクセス

●自動車  
磐越自動車道  
三川ICから車で約30分  
(15km)



**地域の特徴**

阿賀町西部の五頭山山麓地域に位置する「中ノ沢溪谷」は山々に囲まれた、自然環境豊かな地域です。

キャンプ場が整備され、樹齢数百年の「天然スギ」をめぐる周遊コースも散策可能。  
また森林科学館での木工体験などが楽しめる等、四季折々に自然との触れ合いを楽しめます。



**都市部自治体(譲与税活用)や企業等に対する提供コンテンツ(具体例)**

◆中ノ沢溪谷森林散策コース・天然スギ巡り

キャンプ場を基地として目的に応じた3つの散策コースがあります。天然スギ巨木の森についてはガイド案内が必要となりますのでグリーンハウス ☎0254-99-3710までお問い合わせください  
【募集】交流都市の親子を対象に募集。

天然スギ巨木の森コース案内のみ有料  
料金:3,000円/人  
人数:2~10人  
参加人数により1人当たりの料金変更  
所要時間:2.5時間



◆「森林科学館」、木工体験

木の実、木の枝など自然素材を使い自由にオリジナル作品が作れます。ベースになる材料やキットにレーザー加工機を使い加工も可能です  
完成後は絵付け・色塗りも可能です  
【募集】交流都市の親子及び小学校へ周知。

料金:400円/人~  
人数:2~20人  
所用時間:20分~



~ モデルスケジュール ~

天然スギ巨木の森コース  
9:00 グリーンハウス 集合・説明  
9:30 天然スギ巨木の森散策開始  
11:30 散策終了  
12:00 解散

木工体験  
13:00 森林科学館に集合・説明  
13:30 木工体験開始  
15:30 木工体験終了  
16:00 解散

# しがけんなんぶ・こうかちいき 滋賀県(南部・甲賀地域)

くさつし・もりやまし・やすし・こうかし  
草津市・守山市・野洲市・甲賀市

コンテンツ  
分類

森林整備

人材育成

木材利用

普及啓発



## 位置・主要交通機関からのアクセス

### ◆位置

滋賀県の南部に位置し、野洲川を介して上下流の関係。南部地域は京阪神のベッドタウンとして人口が増加

### ◆主要交通機関からのアクセス

#### ●公共交通機関

・JR琵琶湖線(草津駅・守山駅・野洲駅)下車10分程度、

#### ●自動車

・南部地域:名神高速道路栗東ICから15分程度  
・甲賀市:新名神高速道路信楽IC、甲南IC、甲賀土山ICから15分~30分程度



## 地域の特徴

京阪神のベッドタウンとして南部地域(草津市・守山市・野洲市)は人口増加が進んでいる(28万人)。森林率は草津市:3%、守山市:0%、野洲市:15%と低い。一方野洲川上流部の甲賀市は、87千人で人口は減少に転じている。森林率は67%で、いにしえより東大寺の経営する「甲賀杉」がおかれるなど「甲賀ヒノキ」に代表される良質の木材の産地で、林業・木材と関わりが深い。



野洲川下流(南部地域)

野洲川上流(甲賀市)

## 都市部自治体(譲与税活用)や企業等に対する提供コンテンツ(具体例)

### ■企業独自の取組

#### ◆ウッズスタート宣言(企業版)

##### ●株式会社GRiP'S(草津市)

◇県産材木育おもちゃの贈呈(H27~)  
・社員のお子さんが誕生された際に県産材でできた「たまごつみき」を進呈



GRIP'S HP



誕生祝い品・たまごつみき

#### ◆上下流連携の森林づくり

##### ●生活協同組合コープしが(野洲市)

◇油日・上野共有生産森林組合(甲賀市)との森林づくり  
・コープしが組合員等と生産森林組合員が協働で森林づくり  
・コープしがは「コープの森」からうまれた鍋敷きを商品化



コープしが HP



コープの森からうまれた鍋敷き

### ■森林環境譲与税を活用した取組

#### ◆ウッズスタート宣言(自治体版)

##### ●甲賀市

◇誕生祝い品「木のおもちゃ」プレゼント(R5~)  
・甲賀市産のヒノキ材で作られた「木のおもちゃ」を誕生祝い品として市内の新生児にプレゼント  
・10か月児健診時に配付



人数:約550人/年  
健診時に配付



『ばんぼこたまき』

※ウッズスタート宣言:地域の木材を活用し子育て環境を整備する東京おもちゃ美術館の推進する取組

# あやべ 京都府綾部市

コンテンツ  
分類

森林整備

人材育成

木材利用

普及啓発



## 位置・主要交通機関からのアクセス

### ◆位置

京都府の中央北寄りに位置し、美しい自然環境や豊かな里山に彩られた田園都市

### ◆主要交通機関からのアクセス

#### ●公共交通機関

JR山陰本線 綾部駅  
(京都駅から特急で約1時間)

#### ●自動車

京都縦貫道 綾部安国寺IC  
(京都市内から約1時間)  
舞鶴若狭道 綾部IC  
(京阪神から約1時間半～2時間)



## 地域の特徴

大手肌着メーカーグンゼの創業の地であり、古くから繊維業や鉄鋼業などのものづくりを中心とした産業が盛んな地域であること、京阪神地域と日本海地域をつなぐ交通の要衝地であることから、地方の小都市ながら、さまざまな機能や特性がバランスよく備わっている地域です。

- 森林率  
約77%  
(約27,000ha)
- 人口林率  
約45%



## 都市部自治体(譲与税活用)や企業等に対する提供コンテンツ(具体例)

### ◆ハイキング&トレッキング

綾部市内の様々な箇所(春・秋)でガイド付きのトレッキングを実施しています。

#### モデルコース

- 里山と城跡見学コース
  - 水源と古大樹見学コース
- 料金:2,000円～3,000円  
人数:5～15分  
時間:朝から夕方まで  
窓口:綾部市観光協会



### ◆トレイルラン

#### あやべ水源の里トレイルラン

春の京都丹波国定公園の豊かな自然の中や山々を駆け抜け、山の魅力がたっぷりと詰まったコースを堪能できることから、全国から参加者が訪れます。

#### 参加費用

15,000円(50kmコース)

4,500円(15kmコース)

※参加者数上限あり

窓口:同実行委員会



コンテンツ 分類	森林整備	人材育成	木材利用	普及啓発
	☆	☆	☆	☆

コンテンツ 分類	森林整備	人材育成	木材利用	普及啓発
	☆	☆	☆	☆

## 提供コンテンツ(アイデア)

### ◆サステナブル森林ツアー

都市部の修学旅行生(中・高校生)を対象に、町の森林体験。  
森林散策、森林講座、薪割り体験など  
【募集】地元の観光協会を活用



### ◆森再生プロジェクト

都市部の親子を対象に、森林体験、植樹会  
森林散策、ウッドバーニング体験、植樹体験など  
【募集】宿泊施設、SNS、観光協会を活用



### ◆秋の森林業ツアー

企業の社員研修を対象に、森林環境教育  
森林散策、秋の味覚堪能、森づくり体験

## ～ モデルスケジュール ～

#### サステナブル森林ツアー

9:00 集合  
9:10 森林散策  
10:10 森林講座  
11:00 薪割り体験  
11:30 森の実験  
12:00 解散

料金:1,000円/人  
人数:30~40人  
所要時間:180分

#### 森再生プロジェクト

9:00 集合  
9:10 森林散策  
10:00 植樹体験  
10:30 木工体験  
12:00 解散

料金:3,000円/人  
人数:20人  
所要時間:180分

#### 秋の森林業ツアー

9:00 集合  
9:10 森林散策  
10:10 森の講座  
11:00 薪割り体験  
12:00 焚き火・昼食  
13:00 選木体験  
14:00 間伐体験  
15:30 解散

料金:5,000円/人  
人数:10人~20人  
所要時間:一日

## 提供コンテンツ(アイデア)

### ◆森林交流バスツアー

都市部在住の親子参加者を対象に、町在住の親子と共同で植樹体験のほか、町内にある巨木名木の散策などを実施。

料金:2,000円/人  
人数:2~40人  
所要時間:2.5時間

【募集】交流都市の親子を対象に募集。

### ◆りんご園見学、木工体験

りんご園を見学し収穫。体育館にて、木製品のりんご箱を作成する体験を実施。

料金:2,500円/人  
人数:5~30人  
所用時間:4時間

【募集】都市部の小学校へ周知。

## ～ モデルスケジュール ～

#### 森林交流ツアー

9:00 集合  
9:30 植樹体験  
10:00 巨木名木散策  
12:00 解散



#### りんご園見学、木工体験

13:00 集合  
13:30 りんご園見学  
15:00 木工体験  
17:00 解散



コンテンツ 分類	森林整備 ☆	人材育成	木材利用 ☆	普及啓発 ☆
-------------	-----------	------	-----------	-----------

コンテンツ 分類	森林整備	人材育成	木材利用 ☆	普及啓発 ☆
-------------	------	------	-----------	-----------

## 提供コンテンツ(アイデア)

### コンセプト：「木育」～こどもが主人公～

※木育は、「木のファンを増やす」、「森をつくる」に繋がる取組。

#### ◆ 1 ウッドスタートチャレンジ

- ・姉妹都市とともにウッドスタート宣言
- ・町で製作した誕生祝品を姉妹都市で誕生した赤ちゃんへ
- ・町の木材、木工職人の活躍
- ・町地域活性化センター【VISION:世界一こどもが育つまち】のコーディネートによる情報発信



誕生祝品「もぐらと野菜畑」

#### ◆ 2 企業と森のマッチング

- ・高齢化等で管理できない森と都市部企業とのマッチング
- ・企業による森林整備を社会貢献活動の一環としてPR  
カーボンニュートラル、SDGs 等
- ・企業版ウッドスタート宣言への展開



木製品に触れる

#### ◆ 3 協定による森づくりツアー

- ・都市部住民と地元住民の交流のための多彩なメニューを企画
- ・例:木育おもちゃ広場、朝市散歩、里山トレッキング、自然観察

### ～ 予算規模・財源等・地域活性化貢献度(想定) ～

NO	予算規模 (千円/年)	財源等	内 訳	貢献度
1	5,000	譲与税、一般財源	誕生祝品等	↗
2	1,240	譲与税、企業資金	保育間伐等	→
3	2,200	譲与税、県税	交流活動等	↗

## 提供コンテンツ(アイデア)

#### ◆木育講座

- ・広域で活動できる、木育推進員の養成
- ・都市部の保育施設を対象に、森林の大切さ講座、木工体験、フィールドワーク等に資材の供給及び推進員を派遣
- ・都市部の市町村は、譲与税を活用し予算化



#### ◆森林の恩恵を知るためのツアー

- ・都市部在住の親子や一般を対象に、森林施業や製材工場、木材利用施設等の見学、木工体験などを通じて、川上～川下までの一連を体験し、森林の恵みを知るツアーコース等の提供
- ・講師(ガイド)等の派遣
- ・都市部の市町村は、譲与税を活用し予算化



#### ◆地域産材を活用した文具の作成・供給

- ・都市部の小学校新入生に対し、文具(えんぴつ、筆箱)や1～6年生まで使える学校机の天板等を作成し供給
- ・都市部の市町村は、譲与税を活用し予算化



### ～ モデルスケジュール等 ～

#### 木育講座

- 9:30 ホールにて設営開始
- 10:00 講座開始
- 10:10 木工体験
- 11:00 森林や木材についてのお話
- 11:20 片付け
- 11:30 講座終了
- 12:00 撤収

#### 森のめぐみ体験ツアー

- 8:30 集合
- 8:50 出発
- 9:30 伐採現場見学
- 12:00 昼食
- 13:00 木工所の見学・体験
- 14:00 木材利用施設の見学
- 16:30 解散

コンテンツ 分類	森林整備	人材育成	木材利用	普及啓発
	☆	☆	☆	☆

コンテンツ 分類	森林整備	人材育成	木材利用	普及啓発
	☆	☆	☆	☆

## 提供コンテンツ(アイデア)

## 提供コンテンツ(アイデア)

### ◆広葉樹のまちづくりツアー

市が取り組む「広葉樹のまちづくり」の現場をご覧ください。【募集】様々な立場で森に関わる活動をする方々を対象に募集。

料金:無料  
定員:8人  
日程:1泊2日

### ◆広葉樹のまちづくり学校「広葉樹の森の基礎講座」

広葉樹の基礎知識を知る座学と、広葉樹林の見方を学び樹種や稚樹を同定する実習。【募集】広葉樹の活用に興味のある方

料金:50,000円/人  
定員:10人  
日程:2泊3日

- 第2回 広葉樹林施業実践講座:11月上旬
- 第3回 広葉樹の製材・乾燥実践講座:11月下旬
- 第4回 広葉樹のまちづくり実践講座:12月上旬

料金:80,000円/人  
定員:10人  
日程:2泊3日

### ～ スケジュール ～

#### 広葉樹のまちづくりツアー

- 1日
- 13:00 概要説明
  - 14:30 広葉樹流通拠点見学
  - 16:30 ふりかえり、意見交換
- 2日
- 9:00 広葉樹施業地見学
  - 10:30 木工房訪問
  - 13:00 交流促進・商品開発のレクチャー
  - 15:00 解散

#### 広葉樹のまちづくり学校「広葉樹の森の基礎講座」

- 1日
- 13:00 概要説明
  - 14:20 広葉樹流通拠点見学
  - 15:10 実習「広葉樹林を見るポイント／樹木同定の基礎」
- 2日
- 9:00 実習「広葉樹の同定と広葉樹林の見方」
- 3日
- 9:00 実習「稚樹の同定と刈出し作業体験」
  - 13:00 ふりかえり、総括
  - 15:00 解散



### ★わかりやすい企業連携 ⇒ 都市部に近い立地を活かす

### ◆企業の森 連携対象:一般企業

・荒れた都市部の里山を「企業の森」として再生  
(森林経営管理制度になじまない山林を対象)

- ⇒企業のCSR+SDGsの場として、県内外の企業を誘致
- ⇒都市住民と地域住民との交流
- ⇒地域住民をボランティアとして活用

### ◆森林ツアー 連携対象:森林組合等

・県内を通る「自然歩道」を利用した、森林ツアーをパッケージ化

- ⇒山歩きに不慣れな客層を考慮した「登山未満」レベルから、ガチ勢向けの「プチ登山」レベルまで
- ⇒地元の魅力をPR
- ⇒森林・林業関連人口の増加を図る

### ◆林業の担い手の確保・育成 連携対象:森林組合、民間林業事業者

・森林環境教育の充実(間伐見学・体験、植林体験、木工工作等)

- ⇒小中学校のカリキュラムに組み込むことで定例化を図る
- ※都市部で林業が盛んでない地域としての課題がある
- ①森林環境教育を実施し、林業への関心を醸成しても、受け皿となる事業者が少ない
- ②県民の流出が過多で、2030年に県人口が165万人となる予想。そのため教育に投資したものの、地元で就職しなければ投資の効果がなくなることを危惧する

コンテンツ 分類	森林整備	人材育成	木材利用	普及啓発
	☆	☆	☆	☆

コンテンツ 分類	森林整備	人材育成	木材利用	普及啓発
	☆	☆		☆

## 提供コンテンツ(アイデア)

### ◆ 樹木オーナー

- 森林を都市部のマンションの1室でも感じていただけるよう、町の山林に実際に自生している樹種を中心にドングリを入れた鉢をお送りします。
- 2年間、ベランダなどで育ててください。その後、町の山に植樹していただきます。
- 植樹した苗は生育の落ち着く3年程度、町で管理し、ニュースレター等でご報告いたします。

料金:15000円/人 (苗代・送料含む)  
(町までの交通費はご負担ください)  
町受入人数: 5人~30人/1日  
町作業所要時間: 3時間30分

モデルスケジュール  
9:00 バス停出発  
9:30 町有林着  
9:45 あいさつ・町紹介  
10:00~11:00 作業  
11:15 大吊橋観光  
12:30 解散  
町食材弁当配布

### ◆ 中山間地域の森林プランナー

- 中山間地域の山林には、麓に住む人々が生活を営む上で重要な役割が沢山あります。水源を守る、災害に強い山にするのは基より、農林作物や水産物を守ることも大事なことです。
- 森林プランニングをオンラインで体験してもらいます。アーカイブで町の紹介を視聴いただき、オンライン対面で町の課題などについて検証、意見交換いただき、対応策を講じていただきます。
- 中山間地域への理解を深めていただくことが目的です。様々な視点から複数のコースの用意が見込めます。

料金:3000円/1コース  
オンライン端末:1台~5台  
体験時間:(アーカイブ)60分  
(オンライン) 3時間30分

モデルスケジュール  
オンライン対面 3時間30分  
45分 課題考察  
30分 改善案検討  
60分 対応策計画作成  
60分 発表(5分程度)・質疑  
15分 講評

## 提供コンテンツ(アイデア)

### ◆ 竹林整備体験

荒廃竹林を伐採搬出し、炭焼きの体験、竹炭や竹チップの活用を学ぶ

料金:1,500円/人  
人数:5~10人  
所要時間:4.5時間

【募集】学生ボランティアや都市部の企業を対象  
(現地集合)

### ◆ ナラ枯れ跡地整備ツアー

ナラ枯れ被害跡地に植林体験  
学習歩道で森の働きを学習  
水工場見学

料金:1,000円/人  
人数:5~20人  
所用時間:4.0時間

【募集】都市部の親子を対象に募集

### ~ モデルスケジュール ~

竹林整備体験  
9:00 集合  
9:30 伐採搬出作業  
12:00 地元食材昼食  
13:00 炭焼き、チップ作業  
15:00 解散

ナラ枯れ跡地整備ツアー  
10:00 集合  
10:30 植林体験  
11:00 森の働き学習  
12:00 昼食  
13:00 水工場見学  
14:00 解散



コンテンツ 分類	森林整備	人材育成	木材利用	普及啓発
	☆	☆	☆	☆



## 提供コンテンツ(アイデア)

### ◆ 「森の駅」の設置（仮称:林野庁版 道の駅）

※ 森林環境税の実施を契機としてとらえ、本税の制度趣旨を国民一人一人自らが感じるようなシステムを作り上げて、本制度がこの先十分に活用され、100年後の森林環境の整備保全につなげる必要があります。

#### <概要>

森林へ高速道路から林道を利用したアクセス道を引き入れ(既存の生活併用林道があれば活用)、森林の中にサービスエリアを兼用する「森の駅」を設置します。

#### <内容>

1. アクセス道の設置には森林の整備・保全とは相反するとの反対意見があると思いますが、最近の豪雨や地震等の大災害発生時の代替 交通手段の活用目的にも沿うことの意味を求めます。
2. 森の駅は単なる休憩所や土産物店のようなものではなく、木工細工やアスレチックなどの体験施設とし、記念植樹などができる家族で楽しめる施設とします。  
(木とのふれあいの場とすることにより子供たちの木育となり、記念樹は植樹した木を何度も見に来訪してくれる期待感に繋がります。)
3. 森の駅の出展スペースは市町や森林組合、木材会社などの事業体と協定を結び森林関連のコンセプトとします。
4. 森の駅を運営する自治体は、他の自治体と森林整備の協定を結ぶことにより、当該住民が森の駅を利用するための高速道路料金や森の駅内の施設利用料金に負担金を拠出することで利用者の利便性を図ります。